

# 岐阜市議会常任委員会行政視察報告

市議会では、市政の発展に向けた施策などを行政に提案したり、市政に対する提言などを行うため、先進的な事例や取り組みを行っている都市に出向いて直接、調査・研究する「行政視察」を委員会ごとに実施しています。今年度は10月・11月に総務、経済環境、厚生、建設、文教の5つの常任委員会が行政視察を実施しましたので、その概要をお知らせします。

議事調査課 214 6 2 3 7

## 総務委員会

- ① 福島県福島市(10月5日) 福島市役所新庁舎建設事業について
- ② 東京都町田市(10月6日) 町田市役所新庁舎建設事業について

平成32年度の完成に向けて、現在、岐阜市役所新庁舎の建設事業が進められていることから、両市の新庁舎建設事業に関する視察を実施しました。

福島市役所新庁舎は、窓口部門などの行政棟である東棟が平成23年1月に開庁しました。同年3月に東日本大震災が発生しましたが、中枢的防災拠点として位置づけ、免震装置を取り入れていたため、棚などからの落下物はひとつもなく、震災発生からわずか4分後には災害対策本部を設置するなど、その機能を十二分に発揮することができたとのことでした。



▲町田市新庁舎視察

町田市役所新庁舎は、現在、本市で計画している延床面積とほぼ同規模の建築物となっており、旧本庁舎の老朽化及び庁舎機能の分散化を解消するため、平成24年7月に新庁舎が開庁しました。市民利用の多い窓口を1、2階にまとめて配置し、来庁者がなるべく1か所で用事を済ませることができるようワンストップサービスを実現し、市民ニーズの6割から7割程度を満たしているとのことでした。

- ③ 神奈川県相模原市(10月7日) 公共施設マネジメントの取り組みについて  
高度経済成長期に整備した公共施設が今後、一斉に更新時期を迎えることから、維持改修負担の平準化や施設の長寿命化に向けた取り組みだけでなく、公共施設におけるサービス機能の維持・向上を図るために民間活力の導入、施設の存廃など、あらゆる切り口から検討を進めるとともに、設置目的や管理部署の枠を越えた横断的かつ柔軟な対応が必要とのことでした。
- ① 高知県高知市(10月7日) 高知よさこい情報交流館について  
市民、観光客によさこい祭りの情報を発信するとともに、よさこい祭りを通じた交流の場を提供することを目的とした施設です。  
市民の認知度を向上させるといふ観点から、入館料を無料としており、館内でのよさこい鳴子踊りの体験とともに、隣接するはりまや橋商店街と連携し、商店街でよさこい鳴子踊りを披露するなど、市民、観光客へのPRと、中心市街地に人の流れをつくる取り組みが進められています。
- ② 香川県高松市(10月8日) 伝統的ものづくり支援事業について  
高松市の名産である、盆栽、香川漆器などの伝統的ものづくりの伝統技術の継承と発展を目的として制定された、高松市伝統的ものづくり振興条例に位置づけられた基本的施策として、ブランド力の

## 経済環境委員会

向上・販路開拓、普及啓発、人づくりの推進などの様々な事業が展開されています。夏休み親子体験教室の開催など、子どもたちに体験を通して、伝統的ものづくりへの理解促進を図るとともに、将来の担い手育成に努めていました。

- ③ 広島県福山市(10月9日) 地産地消推進とふくやまブランド農産物の取り組みについて



▲福山市視察

市、教育機関、生産者や生産者団体、消費者、流通関係者が一体となり、地産地消推進協議会などの複数の組織を設け、学校給食への利用等による地産地消の推進を図るとともに、ブランド農産物を取り扱うアンテナショップの展開を行うなど、地産農産物のブランド化が進められていました。

## 厚生委員会

- ① 青森県弘前市(10月7日) 弘前市駅前こどもの広場について

駅前にあるビルの3階に整備された子育て支援の拠点となる施設です。子育て支援センター及び遊び場の機能を有するだけでなく、上階に整備された3時間無料の駐車場やフードコート等で購入した飲食物の持ち込み、一時預かりを利用した買い物など、各階との連動により施設

の利用価値を大きく向上させています。こうした取り組みの成果により、市内外から開設当初の目標を大きく上回る利用者が訪れており、地域特性や市民のニーズを把握し、反映することが大切であると感じました。

### 2 宮城県石巻市(10月8日) 石巻市子どもセンターについて

東日本大震災後に、「まちのために」「まちの何かにしたい」という思いを持った子どもたちが企画・デザインを行い、整備された児童館です。子どもが委員として構成された運営会議、施設の利用について自由に提案し審査する子ども企画など、施設のあり方を子どもたちが主体的に考えて運営に関わるとともに、地域の方々と交流して芸術や料理に取り組み子どもエンパワー事業等、子どもの可能性を広げる多様な事業を実施しています。子どもの解決能力を信じて支えることを基本とし、自主性を育てる運営手法や関わり方は、大いに参考になるものでした。



▲石巻市子どもセンター視察

### 3 栃木県宇都宮市(10月9日) みやшина活動センターについて

団塊の世代を中心とするシニア世代が、第2の人生を健康でいきいきと暮らすことができるよう支援している施設です。退職後の再就職や自治会、ボランティアといった地域活動に関する相談対応をはじめ、ライフプラン支援等の講座及び交流会の開催、特派員としてシニア活動の取材を行うシニア参加型広報事業等を実施しており、高齢化が進む中、医療、介護にとどまらず、社会貢献活動や人生設計など、退職後の生活を充実させるための支援も重要であると感じました。

## 建設委員会

### 1 岡山県岡山市(11月4日) 自転車先

### 進都市おかやま実行戦略について

平成24年に策定された自転車先進都市おかやま実行戦略は、自転車の利用環境等を「走る、停める、使う、楽しむ、学ぶ」の5つの施策分野に区分しつつ、相互の連関のもと、戦略的に実施されているのが印象的でした。また、公共交通、自転車主体の交通体系の実現や都市景観の向上などの取り組みは、市民の健康増進、CO2排出量の削減、ひいては市のイメージ向上につながることでした。さらに、主要な幹線道路において、民間事業者の資本や運営ノウハウを活用した民設民営の路上駐輪場の整備により、放置自転車の減少につながった事例は、大いに参考になりました。

### 2 熊本県熊本市(11月5日) 熊本市自転車利用環境整備基本計画について

「自転車でお出かけしたくなるまちづくり」を基本理念とした第2次熊本市自転車利用環境整備基本計画では、自家用車に依存せずに暮らせるコンパクトなまちづくりを目指していました。また、市内中心部へ自転車や公共交通で気軽に来街し、回遊できる、賑わい溢れる都市環境の形成に向けた取り組みとして、駐輪場の設置やレンタサイクル事業などが実施されています。



▲熊本市大江地区自転車専用レーン視察

## 文教委員会

### 1 埼玉県川越市(10月7日) ウェスタ川越について

この施設には、大型ホール、情報コーナー及び交流サロンなどがあり、多彩なふれあいによる地域活力の創造拠点として様々な支援を行っていました。特

に、交流サロンとしての男女共同参画推進施設では、駅から近いという当該施設の立地を生かしてカウンセリングルームを設置するなど、きめ細かい住民サービスに努めています。本市においても複合施設である「みんなの森ぎふメディアコスモス」を有し、施設としての魅力を高めるためには質の高い、行き届いた住民サービスを行う必要性を感じました。

### 2 富山県富山市(10月8日) 富山市立図書館について

富山市立図書館は、「知を深める図書館」をキーワードに、本に親しむ喜びや心の豊かさや育む機会を提供して、特に、雑誌が配置されている1階の開館時間を午前7時にすることにより、早朝からまちなかを散策される方々のニーズに対応していました。そのほか、雑誌スポンサー制度を導入しCSRの一環として企業にも利用してもらう工夫を行うなど、図書館サービス網を構築していました。本市においては、図書館本館が移転し、多くの市民に利用されていますが、今後も図書館のファンをふやしていくためにも、多角的な視点から市民ニーズに対応していくことが重要であると感じました。



▲富山市立図書館視察

### 3 福井県福井市(10月9日) 保幼小中連携による中学校区教育の推進について

福井市では、保・幼・小・中の交流などを行う中学校区教育を平成17年度から推進していました。特に、それぞれの学校の主な取り組みを教育ウィークとしてPRし、家庭及び地域が一体となって教育の気運を高める取り組みを行うことにより、これまで築いてきた保・幼・小・中の縦のつながりから、学校から家庭及び地域へという横のつながりに波及しており、質の高い教育として大変参考になるものでした。